

二度と戦争を繰り返さないために

語り部 塩谷 みどりさん(新原)



※この連載では、ご自身の戦争体験を語り継ぐ「語り部」を紹介します。

昭和20年、20歳だった私は、三の丸国民学校(現在の三の丸小学校)の教員をしていた。3月に東京大空襲があり、水戸でも疎開する生徒が増えていた。朝、生徒たちが登校してきても、警戒警報が鳴り、すぐに集団下校。弁当を一緒に食べることも少なかった。

8月1日の夜、警戒警報が鳴り、学校に駆け付けた。空襲はこないかと思ったが、日付が変わるころ突然の爆撃。必死で水府橋の方へ逃げた。那珂川は川面に炎がたち、まるで火の川のように。まちも大木も燃えていた。けれど、何も感じなかった。恐怖も、怒りも、悔しさも、悲しいという気持ちも。まるで心がどこかに行ってしまったかのようだった。ただ、燃えていくのを見ていた。

すっかり焼けてしまった学校に生徒が集まったのは、空襲から1週間ほどたつてから。生徒たちの顔を見て、本当にうれしかった。終戦を知った8月15日。心の中には、悔しい、残念、悲しいという気持ちと、よかった、これでもう人が死ぬことはないんだという安堵の気持ちが両方あった。昭和20年8月15日は、人生で一番悲しい日であり、一番うれしい日でもある。

塩谷さんは、戦後50年たつまで、戦争のことには語らず、しつら記憶を忘れようとして過

ごしてきたという。語り部を始めるきっかけとなったのは、約15年前。当時小学校3年生の孫が音読していた国語の教科書にあった、戦争の物語を聞いたとき。現在の子どものための親や、祖父母でさえ戦争を知らない世代になりつつあることに驚き、一刻も早く伝えていかなければならない、自分たちでなければ伝えられない、という強い気持ちから決心した。

昨年、水戸市立博物館で開催された「ひめゆり 平和への祈り」展。ひめゆり学徒隊が所属した、沖繩師範学校長の野田貞夫先生は、沖繩に赴任する前、茨城県女子師範学校兼水戸第二高等女学校の校長を務めていた。塩谷さんはその当時の教え子だった。

平和を願い、最後まで生徒に寄り添って戦場で亡くなった恩師の思いを、改めて感じた塩谷さん。「戦争は絶対に繰り返してはいいない。同じ思いをしてほしくないから、一生懸命話をして、伝えていきたい」。塩谷さんには、これからも子どもたちに、私たちに、平和への思いを語り継いでいこう。

問合せ 総務法制課 (027-222-0101) (6)



堀原小学校での語り部活動

知ってる?

知って得!

水戸検定

第28回

問題監修 茨城大学 主催 水戸検定実行委員会

問1

歴史・史跡

安政7(1860)年に江戸城・桜田門外で大老・井伊直弼を暗殺した「桜田門外の変」。襲撃実行部隊の18名のうち、水戸藩出身者は何名でしょうか。

- ① 15名
- ② 16名
- ③ 17名
- ④ 18名

正解率 44%

問2

観光・物産

水戸市では、特色あるさまざまな菓子が作られています。次のなかで、もっとも古くから作られているものはどれでしょうか。

- ① 吉原殿中
- ② 梅ようかん
- ③ 水戸の梅
- ④ のし梅

正解率 73%

問1…⑥ 水戸浪士17名と薩摩藩士1名です。昨年、市民の発案で製作された映画「桜田門外ノ変」。主人公の隠微の助は、指揮官として参加し、襲撃そのものには加わりませんでした。問2…① 水戸城の奥女中であった吉原か、飯を炊(い)こつ婦(あめ)とよばれたことから作られた菓子かもとになってい